

項 目 名	トイレ環境の改善
表 題	排泄時におけるトイレバー使用及び身体障害者トイレ・ナースコール両側設置
施 設 名	老人保健施設『たかのか館』（介護老人保健施設）

1 取り組みを始めた経緯、きっかけ

開設当初から介護において、排泄・入浴・食事については、座位を基本とし、オムツにて排泄を行うのではなくトイレにて排泄を行い利用者の残存能力の維持及びレベルアップできるよう介護してきた。しかし、トイレ便座に座る時、体の傾きによる転倒・ズリ落ちが見られ、利用者に安全面で不安を残していた。このことの対策として、トイレバー及びトイレにナースコール両側設置することにした。

2 取り組みを行った成果

トイレバー

- トイレバー設置することにより、座位姿勢で、トイレバーを手で持てるため、姿勢が安定し利用者に安心感を与えることができた。
- 転倒及びズリおちによる事故を防ぐ役割を果たした。

両側ナースコール

- トイレ便座に座った時、両側のナースコールが利用者本人の眼で確認でき、いつでも職員を呼ぶことができる。（事故防止と利用者に安心感を与えることができた。）
- 麻痺・拘縮により、ナースコールを押せなかった利用者に対して、両側にナースコールがあることにより、健側にてナースコール押すことができる。（利用者に自信と安心感を与えることができた。）

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

（評価）

- トイレにトイレバー・ナースコールを両側に設置することにより、利用者の不安を取り除き安心感を与えるだけでなく、転倒による事故を防ぐ役割を果たしている。

（今後）

- オムツはずしをすることにより、トイレに座り排泄が行えるという自信と喜びを利用者に与えることが出来、今後も継続していく。
- 体型に合わせて便座の穴の大きさ及び高さを調整し、便座の質をよりよいものとし快適に排泄を行う事ができるものを使用していく。（補高便座を検討中）
- トイレ介助の際、常に事故防止対策を考えより良い方法で実践していく。
- 自己実現を目指し、在宅復帰への取り組み。
- 職員の質の向上を目指しながらたゆまない努力の継続。